

英語リーディング授業実践報告
——協働学習とスキミング練習を導入した授業デザイン
Designing EFL Reading Classes
with a Focus on Cooperative Learning and Scanning Exercises

結城 正美
Yuki, Masami Raker

Abstract

This research examines the design of EFL reading classes conducted by a non-native English speaker. Compared with other college-level EFL classes such as those which focus on oral communication, in reading classes, Japanese tends to be spoken more so than English. In order to create a class environment that encourages the use of English throughout, this paper discusses a method of using cooperative learning in conjunction with carefully designed scanning exercises in reading classes. Both activities allow instructors as well as students to use English more naturally during class time. Based on the original idea and students' evaluation, this research is intended to start a discussion on ideas that have worked for the common goal of improving EFL reading classes.

1. はじめに

2007年度に本学学生を対象におこなった調査の結果、日本語母語話者の教員による英語の授業の使用言語が、学生の英語観にかなりの影響を与えることが明らかになった。日本語母語話者の教員が英語で授業をおこなうクラスでは、国際社会の共通語という意味で多様な英語があってよいという見解が多くみられたのに対し、日本語で授業がおこなわれているクラスでは、非母語話者の英語を許容する度合いが低かったのである。日本語母語話者の教員が英語で授業をおこなうクラスでは、教員自身の英語がいわば「完璧」なものではなく、それが「完璧な英語を目指さなくてもよいのだ」という安心感を学生に与え、英語への態度をより柔軟なものにしていると考えられる。授業の内容によっては英語よりも日本語を用いる方が大きな効果を期待できるものもあるだろうが、非母語話者の教員が英語で授業をおこなうことが学生の英語観にもたらす影響は留意しておくべきだろう。

本報告では、前調査で明らかになった教室言語の効用を活かすために試みた授業デザインを紹介したい。英語の授業を英語でおこなうといっても、授業デザインは、内容や対象学生によって一様ではありえない。私自身、演習やスピーキングの授業はすべて英語でおこなうが、リーディング中心の授業や、英語力が一定のレベルに達していない受講生が多

いクラスでは、日本語を用いることが多くなる。

とりわけリーディングの授業を英語でおこなうことには困難が少なくない。文章を理解しているかどうかを確認するために学生に英語でこたえさせようとするれば、彼らの読解力以上の英語力を問うことになり、結果的に授業が円滑に進まなくなる恐れがある。

リーディングの授業をいかに英語でおこなうか。私は、数年前から協働学習を取り入れて英語による意見交換の場を設けているが、今年度はそれに加えて、英語を用いた授業運営を促進するためにスキミング練習を導入した。協働学習とスキミング練習を中心に、本年度の英語リーディング授業のデザインを紹介し、その試みを検証する。

2. リーディング授業のデザイン

2-1. 授業の概要

本報告の調査対象である平成 21(2009)年度後期の「英語 I (リーディング)」の開講曜日、対象学類、履修者数、使用テキストは次のとおりである。

平成 21 年度後期「英語 I (リーディング)」(正式名称「英語 I」)

開講曜日	対象学類	受講者数*	使用テキスト
月曜 4 限	経済、学校教育、 地域創造	27 (女 6、男 21)	David Peaty, <i>Confronting the Issues</i> , Tokyo: Kinseido, 2009.
水曜 1 限	機械工、電子情報、 環境デザイン	25 (女 2、男 23)	John Tilmant, et al., <i>Your Future, Your Society</i> , Tokyo: Seibido, 2005.

*受講者数は、授業を放棄した学生を除く実質的な受講者数であり、「履修者数」とは異なる。

使用テキストは、学生の所属学類の違いを考慮し、適宜選んでいる。それぞれのテキストの内容やレベルは次のとおりである。

	<i>Confronting the Issues</i>	<i>Your Future, Your Society</i>
構成	12 章、Notes (全 109 ページ)	Introduction, 12 章、Notes (全 102 ページ)
平均語数	約 1,500 語/章	約 1,300 語/章
各章の内容	“Information and Misinformation,” “Sweatshop Labor,” “Poverty”等	“The Great Leap,” “A Woman’s Place,” “Freeters,” “Religious Cults”等
難易度*	TOEIC 500-600 (「中上級」相当。 読み応えのある文章。)	中級 (平易な英語で書かれている。)

*「難易度」はそれぞれの版元である金星堂と成美堂の英語教科書カタログに記載されているものである。括弧内に私個人のコメントを示した。

授業は基本的に英語で進めると学生には伝えてあるが、文法説明や読解の解説など日本語の方が効率が良いと思われる場合は日本語を用いている。全体的にみれば、英語と日本語の両方を教室言語とするバイリンガルクラスであると言えるが、より英語による運用が可能となるような授業デザインを試みた。それについて以下に述べる。

2-2. 授業の構成

授業の構成を簡単に説明する。このリーディングの授業の目標は、速読力の向上にある。1500語前後の英文をポイントを押さえて読む力を身につけさせるために、まず英文の構造(Introduction / Body / Conclusion)を把握させ、次に thesis statement や topic sentence を読み取らせながら、パラグラフごとに内容を理解しつつ全体の論旨をつかむトレーニングをおこなう。これが授業の核の活動となる。この活動を効果的にこなうために、リーディングの前にテーマについての意見交換やスキヤニングを取り入れている。90分の授業構成は大体次のとおりである。

時間の流れ*	活動内容
0～10分	テーマへの関心を深める
10～15分	スキヤニング練習
15～35分	スキヤニング練習の答合わせと解説
35～80分	リーディング
80～90分	読みの理解の確認、まとめ

*開始時を0分とし、終了時を90分とする。

それぞれの活動内容を以下に具体的に説明しよう。なお、教室には、机を四つあわせたチームテーブルをつくり、学生は自分のチームの席に着く。一チームに四人いるわけだが、常に四人全員で活動するわけではない。隣の人(shoulder partner)、向かいの人(face partner)、斜向いの人(cross partner)と組むことにより3通りのペア活動が可能であり、適宜ペアを指示している人々と話し合える状況を作るよう心がけている。なお、チームは2～3週ごとに変える。

0～10分： テーマへの関心を深める

授業の最初に、その日のリーディング教材のテーマについて簡単な質問をし、学生に意見交換させる。たとえば、教材のタイトルが“Global Warming”の場合、以下のようなやりとりをおこなった。

Instructor: “We are going to discuss global warming today. We’ve heard about global

warming almost every day, but what exactly is global warming? Can you explain?
Exchange your understanding with your shoulder partner for one minute.”

(Instructor sets the timer, which beeps after a minute.)

Instructor: “Are you ready to give your opinion to the class now? Let me ask . . .

Well, Kindai Taro (student’s name), would you tell us what global warming is?”

Student: “It’s that the earth’s temperature is higher and higher because of greenhouse gases.”

Instructor: “Exactly! Global warming refers to the global phenomenon of the increase in the temperature of the earth. As Kindai-kun pointed out, the cause of this is greenhouse gases. Then I have another question. What are greenhouse gases? I’ll give you one minute again. Exchange your idea with your face partner this time.”

このように、質問→学生同士の意見交換→指名された者による発表というかたちで授業の読み物のテーマについて考えさせ、リーディング教材への関心の向上をはかった。

10~15分： スキャニング練習

スキャニングとは、リーディング教材を「読む」のではなく、活字に目を走らせながら必要な情報を見つける技能である。速読技能としては“scanning”と“skimming”の二つがよく知られるが、“skimming”が“to read something quickly in order to find a particular point or the main points”と定義されるのに対し、“scanning”は“to look quickly . . .”と説明される。学生に両者の違いを示し、スキャニングは、「読む(read)」のではなく「目を向ける(look)」ことである点を強調し、必要な情報を得るために活字の上に目を走らせるイメージを持たせてからスキャニングの練習を開始する。

教材中、スキャニング練習用に10項目程度の日本語を書いた紙を渡し、そこに書かれている語、語句、文に相当する英語を本文から見つけて書き出させる。“Global Warming”と題されたエッセイを読む場合、たとえば次のようなスキャニング資料を作成した。

English I (Reading) / Prof. Yuki / 25 January 2010

Scan Chapter 11 and find English word(s) or phrases for the followings.

- 1 異常気象
- 2 地球温暖化が継続することによる影響
- 3 二酸化炭素の排出削減に取り組む
- 4 バイオ燃料を使えば二酸化炭素は増えない
- 5 使用済みの調理油
- 6 抜本的な措置を取る
- 7 どうも各国政府は政治的都合でバイオ燃料を推進しているように見える
(後略)

授業中のほとんどの活動は協働でおこなうが、このスキニング練習だけは個人で取り組ませる。5分というのは、テキストをスキャンして、該当する語・句・文を見つけ、それをすべて書き写し終えるにはぎりぎりの時間である。しっかり予習していないと、まず5分でリストを仕上げるのは無理だ。したがって、学生には5分でリストが仕上がればそれは予習がしっかりできている証だということを伝え、予習の自己確認の参考とさせている。

資料を配布したら、開始するよう英語で伝える。同時に5分に設定したタイマーのスイッチを押す。見回りながら進行状況を確認する。とりわけ作業の遅い者に声をかけながら、学生が5分間集中してスキニングに取り組めるように努める。

15~35分： スキニング練習の答合わせと解説

5分間のスキニング終了後、進捗状況の如何にかかわらず、チーム内でペアになって答合わせをさせる。このとき、二人で協力してリストを完成させるように促す。これに約3分程度の時間を与え、だいたいリストが仕上がった頃に、一つずつ学生を指名しながら確認をおこなう。

後にアンケート分析にもとづいて詳述するが、授業では協働学習の一部として、学生を指名する前に必ず学生同士による答合わせや意見交換の時間を設けており、それによって、指名された学生の緊張が緩和されていることがわかった。

さて、スキニング練習には、速読技能としてのスキニングのトレーニングをおこなうということに加え、もうひとつの目的がある。文法の説明が必要と思われる個所や、意味のとりづらい個所をピックアップし、答合わせの時間にまとめて解説できるようにしておくのである。これにより、読解の途中で解説を頻繁に差し挟まなくてもよくなり、この後続くリーディングが円滑に進む。

35~80分： リーディング

テキストをパラグラフごとに読み取っていく。Introduction では thesis statement を見つけて、エッセイ全体のテーマを確認させる。続く Body では、パラグラフごとに topic sentence を見つけ、トピックがどのように具体的に論じられているかを、supporting sentences の要約をもとに確認する。以上の作業を、(1)教科書付属の CD をパラグラフごとに聴き、(2)チーム内のペアで内容理解を確認し、(3)教員が指名してこたえさせる、というかたちで進める。たとえば、冒頭のパラグラフは、おおよそ次のような具合に進む。

Instructor: Now let's start reading the essay. As the title shows, this essay is about global warming. Keep that in mind, let us read and discuss the first paragraph. The first paragraph is called the introduction," which presents the thesis, the main theme, of the essay. While listening to the CD, identify the thesis statement. Also, try to

summarize the whole paragraph.

(Listen to the first paragraph of CD)

Instructor: Did you find the thesis statement? Why don't you check your understanding with your face partner. Also, check your understanding of the overall discussion in this paragraph, too.

(Set a timer, which beeps after a minute.)

Instructor: Now, let me ask some of you. Kakuma Hanako (student's name), would you tell us the thesis statement of this essay?

Student: The thesis statement is the last sentence, "This is no longer hypothetical . . ."

Instructor: Right. That's the thesis statement. So the thesis of this essay is that global warming is a reality; it's not hypothetical, it's actually happening. Kakuma-san, would you summarize this paragraph?

Student: Can I use Japanese?

Instructor: Sure.

Student: (日本語による要約)

このように thesis statement や topic sentence については英語でやりとりができるものの、要約は日本語を用いる学生が大半である。冒頭で述べたように、英語による要約は読解力以上の英語力を学生に要求することになるため、日本語で要約することを認めている。ただし、要約は逐語訳にならないよう、あくまでポイントと論理構造を押さえたかたちで発表させるようにしている。

80~90分： 理解確認、まとめ

授業の最後に、教科書に収録されている練習問題を利用して内容理解の確認をおこなう。空欄補充のような単純な練習問題で平易なものは、チーム内で答え合わせをさせ、とくにクラス全体での確認はしない。多様な解答がありうる問題は、チーム内で議論させた後に、数名を指名して答えさせ、クラス全体で考えるようにしている。

以上が授業の概要である。速読力向上を目的とした授業なので、内容理解に十分な時間を割いておらず、以下のアンケートにみられるように内容の点で物足りなさを感じた学生も若干名いた。しかし、同じくアンケートで明らかになったように、ポイントを押さえて長文を速く読む技能を養うという当初の目的はおおよそ達成された。

3. アンケート調査

3-1. 調査の目的と内容

アンケート調査の目的は二つある。一つは、ここ数年実践している協働学習を学生がどのように評価しているかを調べるためであり、もう一つは、本年度はじめて導入したスキヤニング練習とそれを利用した解説の効果を調べるためである。アンケートは後期の最終授業時におこなった（配布したアンケートは付録を参照されたい）。

3-2. 協働学習に関する評価

協働学習に関して、予想される効果をアンケートに書き出して複数回答可というかたちで該当するものを選択させたところ、以下のような結果であった。なお、便宜上、月曜4限のクラス（経済、学校教育、地域創造学類）をクラス A、水曜1限のクラス（機械工、電子情報、環境デザイン学類）をクラス B とする。

1 授業での活動は、基本的に4人一組のチーム単位でおこないませんでした。このことについてどう思いますか。当てはまるものすべてに○を付けてください。

	クラス A (回答数 26)	クラス B (回答数 24)
A. 他の学生と意見交換することにより多様な考えに触れることができてよかった。	12	13
B. チーム活動により、教員に指名される前にパートナーと意見交換や答合わせをすることができ、安心できた。	20	15
C. チームメートの学力は同じではないので、教えたり教えてもらったりした。それをとおしてコミュニケーション力が身についた。	18	8
D. チームに迷惑をかけられないので、しっかり予習した。	13	3
E. チーム活動よりも単独で授業を受ける方がよかった。	0	4
F. その他	0	1

いずれのクラスにおいても過半数の学生が項目 A と B を選んでいる。このことから、チーム活動すなわち協働学習が多様な考えに触れる機会を提供し、また教員に指名された際の緊張を緩和していることが読み取れる。

一方、二つのクラスで明確に相違があらわれたのは、項目 C と D である。クラス A では C と D を選んだ学生が多かったのに対し、クラス B ではいずれも少数であった。C と D はいずれも、複数の学生による関係性の場としてのチームの意義を問うものである。C と D を選択した数がクラス A ではともに大きく、クラス B ではともに小さかったことは、この二つの項目が相互に関連している証左であると言える。結果的に、協働学習を互いの学びの場として活用している（つまり項目 C を選んだ学生の多い）クラス A では、チームの関係性がよい圧力となり予習がしっかりおこなわれた。逆に、協働学習に関して否定的な見解がみられたクラス B では、協働学習が予習の動機となることはなかったようである。

3-3. スキヤニング活動に関する評価

次に、スキヤニング練習と解説に関するアンケートの結果を検証する。関連する質問への回答を集計すると、次のようになる。

3 授業内容についてお訊ねします。授業では主として、①スキヤニングの練習、②スキヤニング練習の解説、③Thesis statement, topic sentence の読み取り、④Paragraph summary による内容理解チェック、をおこないました。それぞれについて意見を聞かせてください。

① スキヤニングの練習

	クラス A	クラス B
A. 有益だった (文章に目を走らせて、欲しい情報を得る力がついた)。	6	7
B. まあまあ有益だった (スキヤニングという方法に慣れることができた)。	19	16
C. 役に立たなかった	1	1
D. その他	0	0

② スキヤニング練習の解説

	クラス A	クラス B
A. 文法的な説明や語彙解説があったので、有益だった。	9	12
B. 意味のとりにくい個所の日本語訳があったので、理解が深まった。	18	9
C. 言えそうで言えない表現が取り上げられており、表現力向上に役立った。	10	11
D. 役に立たなかった	1	0
E. その他	0	0

③ Thesis statement, topic sentence の読み取り

	クラス A	クラス B
A. 英文の論理構造がわかり、長文を読むコツがつかめた。	12	9
B. Thesis statement や topic sentence がわかれば、議論の大筋がわかるようになった。	16	16
C. Thesis statement や topic sentence がわかっても、議論の流れを理解するには至らなかった。	4	4
D. Thesis statement や topic sentence を理解することができなかった。	0	0
E. その他	2	0

④ Paragraph summary による内容理解チェック

	クラス A	クラス B
A. topic sentence と supporting sentences の関係を理解し、的確に議論を要約することができるようになった。	6	4
B. パラグラフごとに内容を理解し、長文を速く読むことができるようになった。	7	6
C. パラグラフの全訳はできるが、要約は難しかった。	14	14
D. 要約では深い内容理解ができず、物足りなかった。	2	2
E. その他	1	0

①と②はスキヤニング練習とその解説をめぐる問いである。スキヤニング練習を「有益」「まあまあ有益」とこたえた学生の割合は 95 パーセントにのぼる。スキヤニング練習の解

説についても、ねらいどおりの反応が得られた。

③と④は速読力に関する問いである。ほとんどの学生が、英文の論理構造を理解した上で内容をすばやく読み取ることに慣れたということがわかる。ただ、④の結果をみる限り、ほぼ半数の学生は内容を的確に要約することに困難を覚えている。ということは、段落ごとのトピックはすばやく理解できても、それをサポートする議論を読み取る力が十分についていない、ということなのだろう。全訳はできるが要約は難しい、という感想が多いのは、要するに議論の展開が十分に理解できていないのである。速読といえどもパラグラフの要約をおこなうには読解力が必要であり、その力は現行のやり方では十分に高められない。それが④の結果に語られていることだろう。今後のリーディングの授業ではこの点を改善しなければならない。

4. おわりに

「英語 I (リーディング)」について二つのクラスを調査した結果、スキミング練習と解説の効果についてはクラス間に特に差は認められなかったものの、協働学習に関しては著しい相違がみられた。一方は協働学習を異なる学力の者が互いに学ぶ場として積極的にとらえていたが、他方はそういうとらえ方をほとんどしていなかった。この違いはアンケートをとる前からクラスの雰囲気を見て感じてはいたが、今回の調査でそれが明確な事実として示されたわけである。

協働学習を積極的にとらえるか、否定的にとらえるか、この相違は何に由来するのか。調査対象とした二つのクラスは、専攻、男女比、そしておそらく相対的な英語力という点でも異なっているが、それが協働学習への態度のちがいに反映されているのかどうかは、本調査からはわからない。明らかなのは、協働学習に積極的なクラスでは学生同士のコミュニケーションや予習への取り組みに良い効果がみられたということだ。スキミング練習が速読力向上に効果があることはわかったので、今後は英語による協働学習の環境づくりを課題とし、授業運営にあたりたい。

引用参考文献

Kagen, Spencer. *Cooperative Learning*. 1992. San Juan Capistrano, CA: Kagen Cooperative Learning, 1994.

結城正美「教室 SLA と使用言語——英語 I (共通教育言語科目) の受講調査結果から」『外国語教育フォーラム』1(2007): 16-25.

附録 アンケート用紙

英語 I (リーディング) 受講者アンケート/結城/2010年2月2日~3日

受講授業：月曜 4 限 水曜 1 限 (いずれかを○で囲んでください)

学類： _____ 氏名 (希望者のみ)： _____

授業改善のため、今学期受講した「英語 I (リーディング)」(結城担当)について意見を聞かせてください。

1 授業での活動は、基本的に4人一組のチーム単位でおこないました。このことについてどう思いますか。当てはまるものすべてに○を付けてください。

- A. 他の学生と意見交換することにより多様な考えに触れることができてよかった。
- B. チーム活動により、教員に指名される前にパートナーと意見交換や答合わせをすることができ、安心できた。
- C. チームメートの学力は同じではないので、教えたり教えてもらったりした。それをとおしてコミュニケーション力が身についた。
- D. チームに迷惑をかけられないので、しっかり予習した。
- E. チーム活動よりも単独で授業を受ける方がよかった。
- F. その他 (_____)

2 1でE(チーム活動よりも単独で授業を受ける方がよかった)を選んだ方にお訊ねします。チーム活動はどのような点で不利益だったでしょうか。あるいは、どのような点が改善されればチーム活動が有益になるとお思いますか。

3 授業内容についてお訊ねします。授業では主として、①スキヤニングの練習、②スキヤニング練習の解説、③Thesis statement, topic sentence の読み取り、④Paragraph summary による内容理解チェック、をおこないました。それぞれについて意見を聞かせてください。

- ② スキヤニングの練習
- A. 有益だった(文章に目を走らせて、欲しい情報を得る力がついた)。
 - B. まあまあ有益だった(スキヤニングという方法に慣れることができた)。
 - C. 役に立たなかった(理由： _____)
 - D. その他 (_____)

- ③ スキヤニング練習の解説
- A. 文法的な説明や語彙解説があったので、有益だった。
 - B. 意味のとりにくい個所の日本語訳があったので、理解が深まった。
 - C. 言えそうと言えない表現が取り上げられており、表現力向上に役立った。
 - D. 役に立たなかった(理由： _____)
 - E. その他 (_____)

- ④ Thesis statement, topic sentence の読み取り
- A. 英文の論理構造がわかり、長文を読むコツがつかめた。
 - B. Thesis statement や topic sentence がわかれば、議論の大筋がわかるようになった。
 - C. Thesis statement や topic sentence がわかっても、議論の流れを理解するには至らなかった。
 - D. Thesis statement や topic sentence を理解することができなかった。
 - E. その他 (_____)

- ⑤ Paragraph summary による内容理解チェック
- A. topic sentence と supporting sentences の関係を理解し、的確に議論を要約することができるようになった。
 - B. パラグラフごとに内容を理解し、長文を速く読むことができるようになった。
 - C. パラグラフの全訳はできるが、要約は難しかった。
 - D. 要約では深い内容理解ができず、物足りなかった。
 - E. その他 (_____)

(後略)